

上川大樹選手が柔道グランプリ大会で優勝 世界ランク 1 位など強豪にオール一本勝ち

柔道の国際大会「グランプリ・デュッセルドルフ」が 2 月 21～23 日、ドイツの当地で行われ、男子 100 kg 超級に出場した京葉ガス柔道部の上川大樹選手が 5 試合をすべて一本勝ちで制し、優勝しました。

(写真)メダルを手にする上川選手



ドイツのデュッセルドルフで 3 日間にわたり柔道のグランプリ大会が開かれ、55 カ国から各国代表の男子 212 選手、女子 155 選手が出場しました。

男子 100 kg 超級は最終日、19 選手によりトーナメント方式で優勝が争われました。

上川選手は 1 回戦に登場しドイツ人選手を相手に足払いで一本勝ちすると、2 回戦では同級世界ランキング 23 位 (2 月 16 日付) のオランダのメイヤー選手と対戦し、払い腰などで試合中盤までに技ありを 2 回奪い、合わせ技一本で勝ち上がりました。

続く準々決勝は早くも世界ランキング 1 位との対戦となり、山場となりました。ロンドン五輪銅メダル、昨年の世界選手権で準優勝するなど屈指の強豪ラファエル・シルバ選手 (ブラジル) に対し臆することなく攻め込んでいくと、中盤に大外返しで一本を決めました。

これで勢いに乗り、続く準決勝では昨年 5 月のグランドスラム・バクー (アゼルバイジャン) 大会で 3 位のレバニ・マティアシビリ選手 (グルジア) に試合開始直後、大外刈りで技ありを決め、そのまま抑え込んで合わせ技の一本勝ち。決勝でも昨年の世界選手権 3 位で世界ランキング 4 位のファイサル・ジャバラ選手 (チュニジア) を相手に攻勢をかけ、劣勢に回った相手に 4 回の指導が与えられ一本勝ちとなりました。

上川選手は「筋力強化のためにやってきたウエイトトレーニングの成果が表れてきた」と試合を振り返り、4 月の「全日本選抜体重別選手権で優勝を狙いたい」と話しました。

